

(6) 環境・衛生施設

1) 環境・衛生施設

① 概要

本市には、環境・衛生施設として環境衛生センターと斎場があります。

環境衛生センターは、多様化するごみに対応し、溶融残さの再資源化を図り、有効利用ができるごみ処理施設（全国で初めて高温溶融処理方式を採用）として建設され、ダイオキシン類をはじめとする公害防止対策にその効果を発揮しています。また、ペット等の小動物の火葬（有料）も行っています。

環境衛生センターは昭和 55 年（1980 年）建築の第一工場棟（延床面積：約 1 万 2 千㎡）と平成 8 年（1996 年）建築の第二工場棟（同：約 1 万 7 千㎡）をはじめとする、大小さまざまな 30 棟で構成されています。

平成 25 年（2013 年）から、し尿（浄化槽汚泥）、令和 5 年（2023 年）から、ごみの広域処理として、摂津市の廃棄物を茨木市で処理しています。

斎場は、4 つの告別式場と火葬場があり、昭和 28 年（1953 年）から、簡素・厳粛を旨とする市営葬儀を行っています。

いずれも直営の施設であり、指定管理者制度等は導入していません。

表 3-2-14 環境・衛生施設の概要

No.	施設名	所在地	複合区分	運営形態	延床面積 (㎡)	主要な建物の情報 (R7年末現在)			
						主な建築年	経過年数	構造・階数	耐震性
ごみ・し尿処理施設									
1	環境衛生センター	東野々宮町14番1号	単独	直営	41,461	H8	29	SRC・6	○
斎場									
1	斎場	大住町18番16号	単独	直営	3,439	H6	31	RC・2	○



環境衛生センター



斎場

② 施設位置図

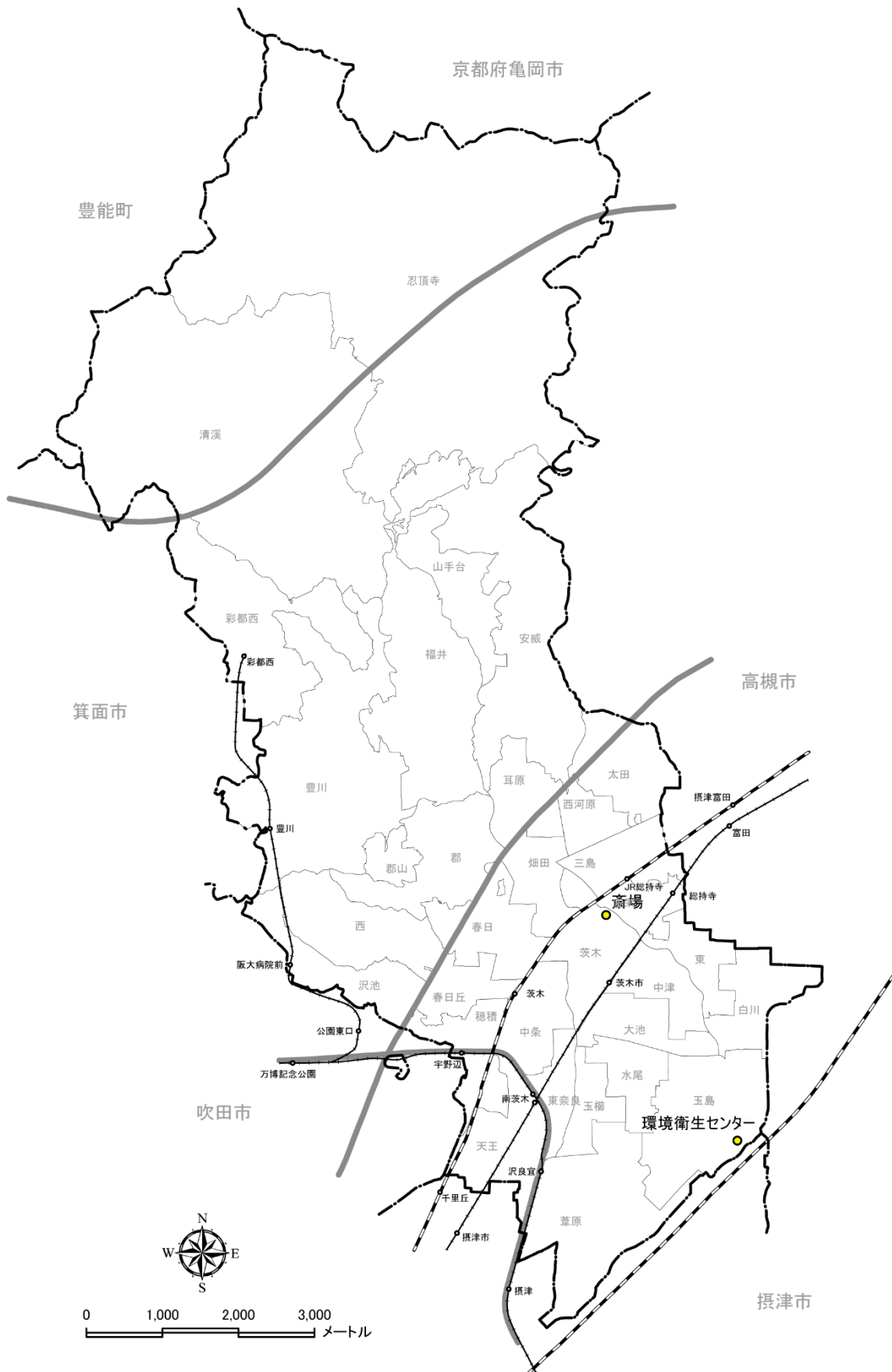


図 3-2-88 対象施設位置図 (環境・衛生施設)

③ 利用の状況

ごみ総量の推移をみると、平成 21 年度（2009 年度）以降、微減傾向にありましたが、令和 6 年度（2024 年度）では、摂津市分と合わせて約 11 万 8 千トンとなっています。

し尿処理総量の推移をみると、平成 21 年度（2009 年度）の約 9 千トンから減少傾向にあり、令和 6 年度（2024 年度）では約 5 千トンとなっています。

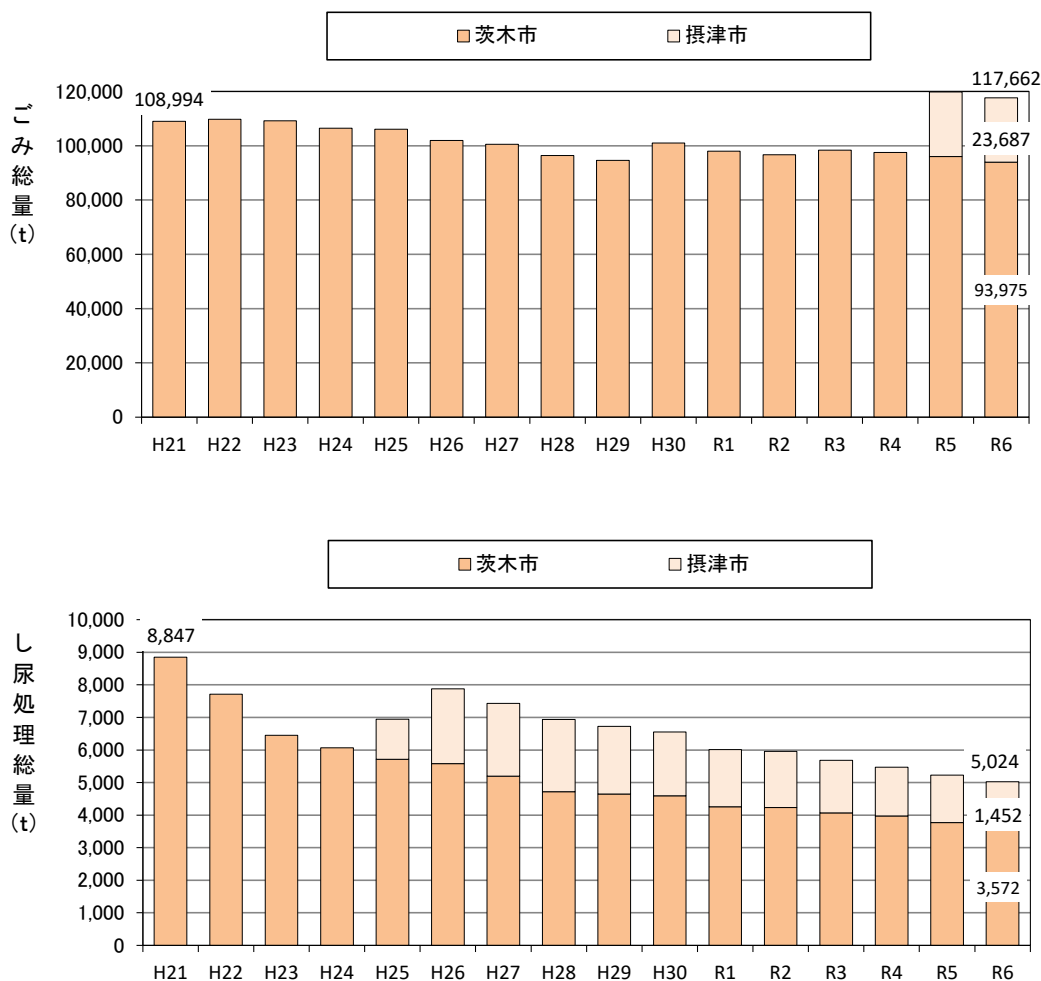


図 3-2-89 ごみ総量等の推移

斎場の利用件数の推移をみると、告別式場の利用件数は増減を繰り返しながら、平成 30 年度（2018 年度）以降、年間 800 件ほどで推移しています。また、火葬場の利用件数については、増加傾向が続いており、近年は 2,500 件を超えている状況です。

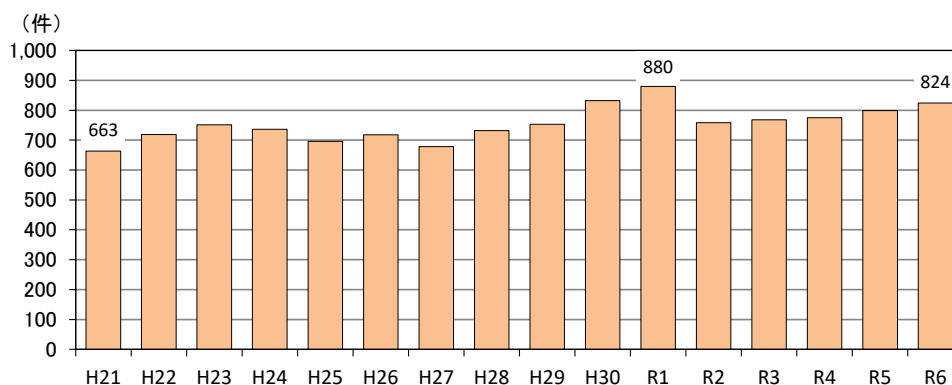


図 3-2-90 斎場（告別式場）の利用件数の推移

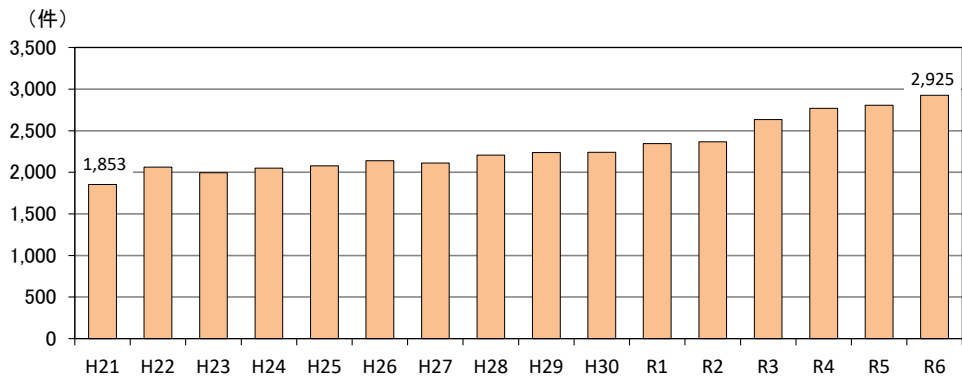


図 3-2-91 斎場（火葬場）の利用件数の推移

④ 施設に関する総コストの状況

令和6年度（2024年度）の施設に関する総コストをみると、環境衛生センターは約28億円となっており、そのうち運営費が約6割を占めています。

また、歳入をみると、環境衛生センターで約14億円、斎場で約1億5千万円となっています。

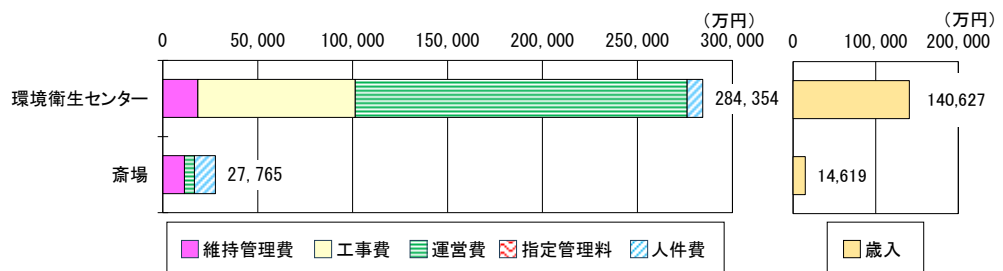


図 3-2-92 施設に関する費用と内訳（令和6年度（2024年度））

⑤ 単位あたりの市負担コストの状況

単位あたりの市負担コスト（工事費に係る歳入歳出を除く）について、延床面積1㎡あたりで見ると、斎場で約3万8千円、環境衛生センターで約1万5千円となっています。

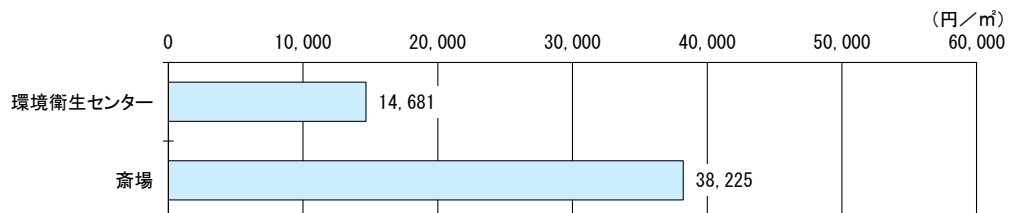


図 3-2-93 延床面積1㎡あたりの市負担コスト（令和6年度（2024年度））